

■桑原武夫 仏文学者。思想家。〈敗戦〉直後に、「第二芸術論」で衝撃を与え、人文科学における共同研究の先駆的指導者。

くわばらたけお

日露戦争始・1904= 母の里の福井県敦賀郡敦賀町蓬萊で、東洋史学の権威京都帝国大学教授桑原隲蔵の長男に生まれる。

日露戦争終・1905= 1歳： 京都に育ち、

明治天皇没・1912= 8歳：
大正政変・・・1913= 9歳：

京都第一中学校、

原敬首相暗殺1921=17歳：
水平社結成・1922=18歳：

第三高等学校を経て、

共産党事件・1928=24歳： 京都帝国大学文学部フランス文学科を卒業。

旧制大阪高校教授兼京都大学文学部講師を経て、

満州事変・・・1931=27歳：

国際連盟脱退1933=29歳： 生島遼一共訳スタンダール「赤と黒」、アラン「散文論」翻訳、
父隲蔵の関係もあり、早くから西田幾多郎や内藤湖南ら京都学派の碩学の警咳に接して研鑽、

二二六事件・1936=32歳： スタンダール「カストロの尼」翻訳、
日中戦争始・1937=33歳： 生島遼一共訳スタンダール「匣と亡霊」、

大政翼賛会・1940=36歳：
日米開戦・・・1941=37歳： アラン「芸術論集」翻訳など、スタンダールやアランの研究で、フランスの文学や評論を広く日本に紹介。

創価学会検挙1943=39歳： 「事実と創作」、野田又夫共編「科学読本」。東北帝国大学助教授となり、
年金+総武装 1944=40歳： 野田又夫共訳アラン「デカルト」。同期の今西錦司らとともに登山家としても知られ、「回想の山山」以降、
登山に関する著書も多く、日本の学者・文人としては希有の行動力を示し、

敗戦・・・1945=41歳：
新憲法公布・1946=42歳： 「ざくろの花」。雑誌「世界」で*俳句を論じた「第二芸術」を発表、前近代芸術への批判が衝撃を与える。

新憲法施行・1947=43歳： 「フランス印象記」「現代日本文化の反省」、生島遼一共訳スタンダール「ヴァニナ・ヴァニニ」、
極東裁判判決・1948=44歳： 京大人文学研究所教授に就任、

三大事件・・・1949=45歳： 「現代フランス文学の諸相」、生島遼一共訳スタンダール「娼業」、

朝鮮戦争始・1950=46歳： 「人間素描」。戦後の出版ブームを啓発する*岩波新書「文学入門」はベストセラーになって影響。

独立回復・・・1951=47歳： 「宛名のない手紙」「歴史と文学」。毎日出版文化賞の「ルソー研究」以降、学際的・先駆的共同研究を推進、

メテオ事件・1952=48歳： 「近代文学入門」、生島遼一共著「文学と女の生き方」、編著「18世紀フランス」、

TV放送始・・・1953=49歳： 「文化への発言」「登山の文化史」、

自衛隊発足・1954=50歳： 「世界文学入門」、前川貞次郎共訳ルソー「社会契約論」。*吉川幸次郎との共著「新唐詩選続篇」が話題になり、
「フランス百科全書の研究」で毎日出版文化賞、

55年体制始・1955=51歳： 「雲の中を歩んではならない」「ソ連・中国の印象」、

国連加盟・・・1956=52歳： 編著「フランス革命の指導者」「一日一言〜人類の知恵」「岩波小辞典西洋文学」。日本学術会議副議長、

なべ底不況・1957=53歳： 「フランス的ということ〜桑原武夫文芸評論集」、

イヌサントラーム・1958=54歳： 「この人々」。京都大学学士山岳会の隊長として、パキスタン領のチョゴリザ山への登頂を成功に導く。

美智子妃・・・1959=55歳： 「チョゴリザ登頂」、編著「フランス革命の研究」、京大人文学研究所所長、

安保闘争・・・1960=56歳： 「研究者と実践者」、

タイタイ病始・1961=57歳： 「時のながれ」、編著「世界の歴史10〜フランス革命とナポレオン」、共訳「ふくろう党 バルザック全集1」

全国総合計画1962=58歳： 編著「ルソー」。編著の中公新書「日本の名著〜近代の思想」もベストセラー。

TV宇宙中継始1963=59歳： 「日本文化の考え方〜評論とおしやべり」「発展しつつある国々〜インド・ネパール・アフリカ紀行」、

東京リビック 1964=60歳： 編著「ブルジョワ革命の比較研究」。*「宮本武蔵と日本人」など、多くの共同研究を指導、梅棹忠夫、梅原猛、
上山春平、鶴見俊輔、多田道太郎ら多くの文化人が育って行った。

大学紛争始・1965=61歳： 「詩人の手紙〜三好達治の友情」、翌年にかけて、多田道太郎・樋口謹一共訳ルソー「告白」(全3巻)、島田虔
次共訳・校注中江兆民「三酔人経綸問答」

いざなぎ景気1966=62歳： 編著「現代の対話〜末川博、湯川秀樹、梅原猛」「中江兆民の研究」。フランス共和国国家勲功騎士章。

美濃部都知事1967=63歳： 「フランス文学論」、編著「文学理論の研究」、共訳「ヴァレリー全集」第8、10、11。

震ヶ関ビル・1968=64歳： 「桑原武夫紀行文集」、翌年にかけて生島遼一共編「スタンダール全集」。定年退官し、名誉教授。

全共闘・・・1969=65歳： 「新井白石「折たく柴の記」(日本の名著)」責任編集、朝日新聞社「桑原武夫全集」刊行開始、

トルジョック・・・1971=67歳： 「思い出すこと忘れえぬ人」、訳編ディドロ・ダランベール編「百科全書 序論および代表項目」、

日中国交回復1972=68歳： 「伝統と近代〜代表作選集」、対話集「日本の眼 外国の眼」、

石油ショック1973=69歳： 「桑原武夫全集」全7巻・補巻1が完結。

角栄金脈辞任1974=70歳： 「論語中国詩文選」「ヨーロッパ文明と日本」、編著「世界の歴史24戦後の世界」。勲二等瑞宝章。

クランブル事件1975=71歳： 「人間素描」「文明感想集」。朝日文化賞。

田中角栄逮捕1976=72歳： 「フランス学序説」、

JALハイジャック・1977=73歳： 日本芸術院会員。

成田衝突・・・1978=74歳： 「文学序説」「わたしの読書履歴」、編著「世界の歴史24戦後の世界」「フランス革命の指導者」「素顔のヨーロッパ」、加藤周一ほかと「中国とつきあう法」、編訳「啄木・ローマ字日記」、

革新大敗北・1979=75歳： 「世界の名著37 ミシュレ」責任編集。文化功労者、

貿易摩擦始・1980=76歳： 「文章作法」。翌年にかけて岩波書店「桑原武夫集」全10巻刊行。

・・・1981=77歳： 梅棹忠夫・司馬遼太郎編「桑原武夫伝習録」、

中曽根内閣・1982=78歳： 富士正晴編「桑原武夫集」、共著「吉川幸次郎追悼文集」、

ドイツユーボ・1983=79歳： エッセイ集「昔の人〜今の状況」、人間史観〜桑原武夫対談集」、編著「日本文化と世界を考える」、

・・・1984=80歳： 対談集「日本語考」、編著「明治維新と近代化」(湯川秀樹)。世界平和アピール七人委員会の委員。

ジャンボ機墜落1985=81歳： 平安建都1200年記念協会会長。

バブル始・・・1986=82歳： 鈴木昭一郎共編「スタンダール研究」、

竹下登内閣・1987=83歳： 文化勲章を受章して、

リクルート事件・1988=84歳： 没した。

「この人どんな人」、インターネットWikipedia、